

少子高齢化

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

少子高齢化が進む中、将来の世代のために私たちは何を考えるべきだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 少子高齢化

出生率と人口

しょうしか
少子化

生まれる子どもの数が減ること。

こうれいか
高齢化

65歳以上の人の割合が高まること。

ごうけいとくしゅしゅしょうりつ
合計特殊出生率

一人の女性が一生に産む子どもの数の平均。

日本では、生まれる子どもの数が減る**少子化**と、65歳以上の人の割合が高まる**高齢化**が同時に進んでいる。一人の女性が一生のうちに産む子どもの数の平均を**合計特殊出生率**といい、日本では近年1.2を下回り、人口を保つのに必要とされる約2.1を大きく下回っている。結婚や出産の年齢が上がったことなどが背景にある。

人口の構成は、年齢別・男女別に積み上げた**人口ピラミッド**でわかる。かつての日本は子どもが多い**富士山型**だったが、いまは若い層が細く高齢層が厚い**つぼ型**に近づいている。総人口は2010年前後から減り続けている。15～64歳の**生産年齢人口**が減ると、税や社会保険料を負担する人が少なくなる一方、年金や医療・介護を必要とする人は増えていく。

型	年齢の構成
富士山型	子どもが多く高齢者が少ない
つりがね型	子どもと高齢者が少なく中間が厚い
つぼ型	子どもが少なく高齢者が多い

2 持続可能な社会

世代間の公正

じぞくかのう
持続可能な社会

将来の世代の必要をそこなわない社会。

せだいかん こうせい
世代間の公正

世代がちがっても負担と利益を公平にする考え。

いくじきゅうぎょう
育児休業

子どもを育てるために仕事を休める制度。

少子高齢化で働く世代の負担が重くなると、子育て支援と社会保障の両方が課題になる。政府は2023年に**こども家庭庁**を発足させ、**保育所**の整備や**育児休業**の取得促進などで、子育てしやすい環境づくりを進めている。高齢者が働き続けられる仕組みや、地域で支え合う取り組みも広がっている。

現在の世代の暮らしだけを優先し、借金や環境への負担を将来の世代に残すのは公正とはいえない。将来の世代の必要をそこなわずに、現在の世代の必要を満たす社会を**持続可能な社会**という。世代がちがっても負担と利益が公平になるようにする考え方を**世代間の公正**といい、社会保障や財政、環境など多くの問題を考える手がかりになる。

問いへの答え

日本では少子化と高齢化が同時に進み、人口が減って働く世代の負担が重くなっている。子育て支援を進めるとともに、将来の世代の必要をそこなわない持続可能な社会をめざし、世代間の公正を考えて、負担と利益が公平になるようにしていく必要がある。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

